

オオサカハイマック通信

VOL.2 (2018年2月)



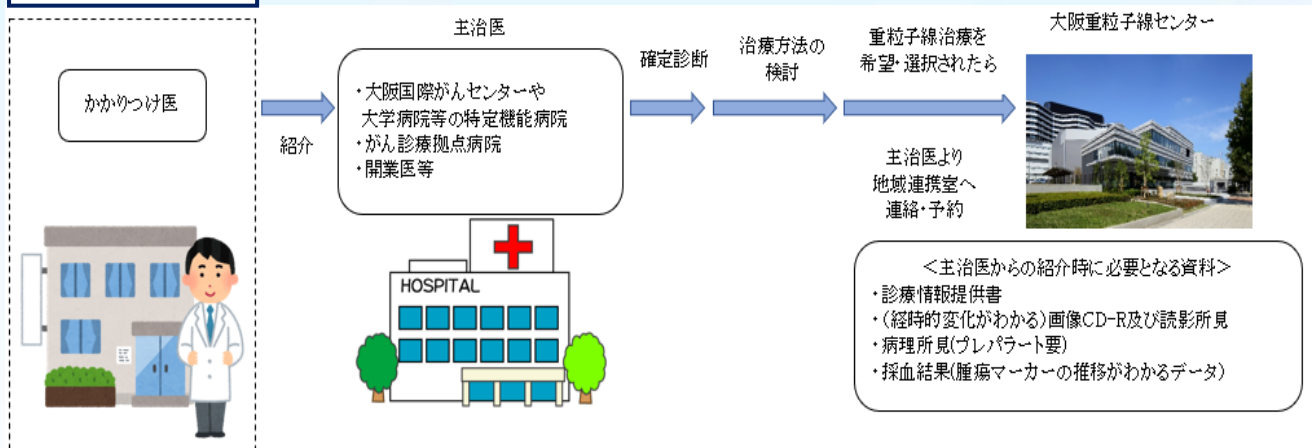
スタッフ紹介

副センター長 茶谷 正史



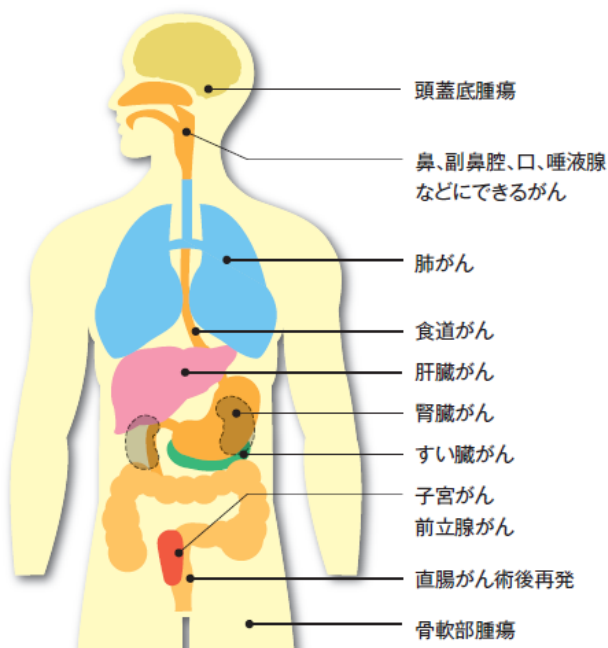
茶谷正史先生は1951年生まれ、徳島大学を卒業後、大阪大学医学部附属病院、大阪府立成人病センター、大阪労災病院 放射線治療科部長、大阪大学医学部 臨床教授を経て大阪重粒子線センター副センター長に平成29年4月に就任しました。

紹介方法



重粒子線がん治療の治療対象となるがん

重粒子線がん治療は、限局性の固形のがん治療に適しています。また、がんの近くにある正常な重要臓器への照射を避けることのできる治療法です。※詳しくは医療機関にご確認ください。



治療に要する日数・期間の目安

	回数(目安)	期間(目安)
頭蓋底腫瘍	16回	4週間
頭頸部がん	16回	4週間
肺がん(Ⅰ期非小細胞肺がん)	1~4回	1週間以内
肝臓がん	2~4回	1週間以内
腎臓がん	12回	3週間
すい臓がん	12回	3週間
前立腺がん	12回	3週間
直腸がん術後再発	16回	4週間
骨軟部腫瘍	16回	4週間
子宮がん	20回	5週間

※臨床試験のものもあります。また、施設によって治療できる部位が異なることもあります。詳しくは治療施設にお問い合わせください。

トピックス：施設検査に合格しました

大阪重粒子線センターは放射線治療の一種である重粒子線治療を行う施設なので、原子力規制庁に届け出て、加速器から放射線を発生してもよい使用許可を得なければなりません。治療中に発生する放射線が、周囲に漏れない遮蔽(しゃへい)性能を有する建物を建設する必要があります。放射線の発生を計算機シミュレーションし、十分な遮蔽性能を有する建物を設計施工して、建築後は所定の性能があるかどうか検査で確認しなければなりません。

この検査を施設検査といい、施設検査に合格しないと加速器を運転できません。矛盾するようですが、施設検査を受検するには、加速器から放射線が出なければいけませんので、原子力規制庁に放射線発生装置の使用許可をいただき、検査が受けられるように事前に加速器を運転調整します。放射線が発生する領域を管理区域といい、入退室を管理して、調整を進めます。

大阪重粒子線センターでは2017年10月18日に管理区域を設定し、加速器の調整を進め、2017年12月14日と15日の両日で施設検査を受検し、使用許可の内容に適合していることを確認していただきました。2017年12月18日に合格の通知をいただきましたので、晴れて加速器を使用して、放射線を発生することができるようになりました。

今後、治療開始に向けて重粒子線治療装置の試験調整を行います。

お知らせ

2018年2月11日に市民公開講座*を、2018年2月17日に開院式を予定しています。本センターは、2018年2月1日に開設、2018年3月1日に開院予定です。治療開始は2018年10月を予定しています。

※市民公開講座の受付は終了しました。

— 寄附のお願い —

公益財団法人 大阪国際がん治療財団では、施設の開設に向け、広く寄附を募っています。当財団へ寄附いただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として税制上の優遇措置があります。詳しくは当財団までお問い合わせください。

— お問い合わせ —

発行元:公益財団法人 大阪国際がん治療財団
電話:06-6947-3210 ファックス:06-6947-3211
住所:〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前3-1-10

大阪重粒子線センターや治療についての詳細はホームページをご覧ください



大阪重粒子線センター

Osaka Heavy Ion Therapy Center

<https://www.osaka-himak.or.jp/>

